

平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社銀座山形屋
コード番号 8215 URL <http://www.ginyama.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山形 政弘
問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 渡邊 光潤
定時株主総会開催予定日 平成27年6月29日 配当支払開始予定日 平成27年6月30日
有価証券報告書提出予定日 平成27年6月29日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

TEL 03-6680-8711
平成27年6月30日

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期の連結業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	4,815	6.5	162	100.0	239	45.0	190	44.0
26年3月期	4,519	4.8	81	—	165	498.5	132	—

(注) 包括利益 27年3月期 225百万円 (△19.6%) 26年3月期 280百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
27年3月期	11.02	—	6.3	5.0	3.4
26年3月期	7.65	—	4.7	3.7	1.8

(参考) 持分法投資損益 27年3月期 一百万円 26年3月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期	4,792	3,017	63.0	174.80
26年3月期	4,466	2,792	62.5	161.76

(参考) 自己資本 27年3月期 3,017百万円 26年3月期 2,792百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
27年3月期	310	△17	△4	1,102
26年3月期	91	△15	△8	813

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
27年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00	51	27.2	1.8
28年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00	—	39.4	—

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,236	7.6	△75	—	△46	—	△52	—	△3.01
通期	5,050	4.9	206	26.7	250	4.4	220	15.7	12.70

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

27年3月期	18,044,715 株	26年3月期	18,044,715 株
27年3月期	784,586 株	26年3月期	782,169 株
27年3月期	17,261,695 株	26年3月期	17,263,007 株

(参考) 個別業績の概要

平成27年3月期の個別業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	244	△5.6	△33	—	175	6.7	189	8.2
26年3月期	258	△30.5	△36	—	164	864.7	175	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期	10.97	—
26年3月期	10.14	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
27年3月期	3,741	3,157	3,157	2,934	84.4	182.91	182.91	
26年3月期	3,557	2,934	2,934	2,934	82.5	169.98	169.98	

(参考) 自己資本 27年3月期 3,157百万円 26年3月期 2,934百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく監査手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
(4) 事業等のリスク	6
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	8
(1) 会社の経営の基本方針	8
(2) 目標とする経営指標	8
(3) 中長期的な会社の経営戦略と今後の対処すべき課題	8
(4) 内部管理体制の整備・運用状況	9
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	9
5. 連結財務諸表	10
(1) 連結貸借対照表	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	12
連結損益計算書	12
連結包括利益計算書	13
(3) 連結株主資本等変動計算書	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	16
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	17
(連結損益計算書関係)	18
(連結包括利益計算書関係)	19
(連結株主資本等変動計算書関係)	20
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	21
(リース取引関係)	21
(金融商品関係)	21
(有価証券関係)	21
(デリバティブ取引関係)	22
(退職給付関係)	22
(ストック・オプション等関係)	23
(税効果会計関係)	23
(資産除去債務関係)	23
(セグメント情報等)	24
(関連当事者情報)	28
(1株当たり情報)	29
(重要な後発事象)	29
6. その他	29
(1) 役員の変動	29
(2) その他	29

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成27年3月期(百万円)	4,815	162	239	190
平成26年3月期(百万円)	4,519	81	165	132
前期比(%)	106.5	200.0	145.0	144.0

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日本銀行による経済対策や金融政策の効果などから企業収益に改善の動きが見られ、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、4月の消費税増税後からの個人消費は力強さに欠ける状況が長期化し、原材料の高騰や電気料金の高止まり等、引き続き不透明な状況が続くと思われます。

このような環境のもと当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フロー」を出せる経営基盤の確立の方針のもと、収益力向上に努めてまいりました。

第一として、銀座山形屋の服づくりのこだわり「MADE IN JAPAN」・「着心地と品質」を柱に、「世界一のオーダーメイド企業をつくる」

第二として「お客様から見た商品やサービスの価値を最大化する努力をすることにより、ファッションを通じ、いきいきとした生活、楽しい生活、充実した生活を提案し続ける」という経営理念に基づき行動する。

第三として「従業員全員がオーダーメイドのプロ」として、服づくり・採寸接客の技術を“ぶれることなく”継続して磨きつづけること、によりグループ企業一体となり下記の施策を実行いたしました。

① 販売員ひとりひとりがレベルアップし「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピーターオーダーを目指す」を目標に再客(リピーター)をものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において、本物のプロとしてのテラー集団をつくりあげてまいりました。

② お客様に魅力的なブランドを認知していただくために「銀座山形屋ブランド」は、昨年の秋冬、コートに新たなモデルを開発し、銀座発信の都会的で洗練された、ファッションスタイルを提案させていただきました。

お洒落に拘りを持ったお客様への「サルトリア プロメッサブランド」は、35歳をメインターゲットにイタリアの洋服文化を感じていただきながら、「あなたを包む価値ある一着」のコンセプトのもと、スーツを主軸として提案をしてまいりました。

女性のためのベーシックデザインを基本とした「ミスターナブランド」は、30歳から40歳を中心に、自分の体型にあった拘りの一着をモードとともに、お客様にお届けすることにより満足感を提案し、パターンオーダーメイドシステムを更に強化し、他社とは一味違う着心地感とファッション性を追求してきました。

③ 製造事業会社に属する「ブレフブランド」は、オーダースーツの入門編として28歳をメインターゲットとして、既存のブランドではアプローチできていなかった若年層のお客様に対して、“オーダーの楽しさ”“新鮮さ”を提案してまいりました。今年2月、若年層に人気のある町、吉祥寺に4店舗目を出店させていただきました。

また、インターネットによるオーダースーツブランド「スーツファクトリーdpi」は、楽天ショッピングモールやフーショッピングモールへの出店で、40才をターゲットに販売強化してまいりました。

④ 製造部門におきましては、TSS手法の活用で「ムダ・ムリ・ムラ」のない製造工程を作り上げ、安定した品質向上のできる生産体制による魅力ある商品づくり、物流システムを見直し販売体制との効率的な仕組みを作り上げてまいりました。また、すべての業務に精通した次のプロ人材を育てるべく、教育を実施してまいりました。

⑤ 固定費削減におきましては、ひとつひとつ費用の見直しを継続して行ない経費削減への取り組みを速やかに実施してまいりました。

<当社グループの営業の経過および成果>

主力のオーダーメイド販売が好調に推移し、既製コートの売上高減少や消費税増税の影響はありましたが当連結会計年度の経営成績は、売上高4,815百万円（前期比6.5%増）となりました。

オーダーメイドスーツ売上高の増加は、品質に拘り、テーラー銀座山形屋のプロとして一着一着を大切に販売することを“ぶれることなく”継続しつづけてきたことにより、結果として着数が増加し、1着当たりの販売単価が1,300円ほどアップしたことが要因であります。販売費及び一般管理費は出店費用・新卒採用増等により増加いたしましたが経常利益は239百万円（前期比45.0%増）となりました。また、投資有価証券評価損20百万円及び減損損失の計上5百万円等により当期純利益は190百万円（前期比44.2%増）となりました。

なお、店舗の状況につきましては、ブレフ4号店をパルコ吉祥寺に出店し、営業部門を渋谷区千駄ヶ谷に移転したことにより、当連結会計年度末における店舗網は、(株)ウィングロード23店舗、日本ソーイング(株)8店舗であり、グループ合計で31店舗となっております。

セグメント別では、小売事業が売上高2,080百万円（前期比9.9%増）、営業利益79百万円（前期比385.8%増）、卸売事業が売上高1,736百万円（前期比2.9%増）、営業利益89百万円（前期比28.8%増）、受託縫製事業が売上高2,813百万円（前期比6.6%増）、営業利益37百万円（前期比11.0%減）となりました。

<当社の営業の経過及び成果>

当事業年度における売上高は244百万円（前期比5.6%減）、経常利益におきましては、子会社の貸付金に対する貸倒引当金の戻入計上等により175百万円（前期比6.7%増）となりました。当期純利益は189百万円（前期比8.2%増）となりました。

<次期の見通し>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益 (親会社株主に帰属 する当期純利益)
平成28年3月期（百万円）	5,050	206	250	220
平成27年3月期（百万円）	4,815	162	239	190
前期比（%）	104.9	126.7	104.4	115.7

今後の見通しにつきましては、景気回復の兆しを感じられるものの、個人消費の回復遅れや円安による原材料価格の上昇など、当業界をとりまく環境は依然厳しい局面が続くと予想されます。

このような状況のもと当社グループは、営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的黒字化の基盤を構築するため既存事業の客数・品質を向上させながら販売の拡大・強化を図ってまいります。

(2) 財政状態に関する分析

① 当連結会計年度の資産、負債、純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して199百万円増加し、4,792百万円となりました。

資産の部では、流動資産が前連結会計年度と比較して325百万円増加しました。売上が比較的順調に推移したことにより現金及び預金が188百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は前連結会計年度と比較して126百万円増加しました。主な要因は投資有価証券が時価の上昇に伴う評価差額金を計上したことによる増加60百万円や、主に工場設備に対する有形固定資産の増加70百万円があったこと等によるものであります。

負債の部では、前連結会計年度末と比較して101百万円増加し1,775百万円となりました

これは、主に未払消費税の増加等によるものであります。

純資産の部においては、主に当期純利益190百万円の計上をした結果、当連結会計年度末の株主資本は、前連結会計年度と比較して189百万円の増加となりました。

また、その他有価証券評価差額金は35百万円の増加でありました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は1,102百万円であり、前連結会計年度末に比べ288百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは310百万円の収入となりました。これは主に税金等調整前当期純利益214百万円や減価償却費60百万円を計上をしたこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは17百万円の支出となりました。定期預金の払戻による収入100百万円これは差入保証金及び敷金の返還による収入22百万円があった一方で、有形固定資産の取得による支出98百万円及び投資有価証券の取得による支出20百万円並びに差入保証金及び敷金の預入による支出14百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主にリース債務の減少による資金の支出4百万円がありました。

	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期
自己資本比率 (%)	63.4	59.9	60.1	62.5	63.0
時価ベースでの自己資本比率 (%)	31.5	36.8	40.4	61.6	65.3
債務償還年数 (年)	—	—	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ	—	—	—	—	—

(注) 1. 各指標の算出は以下の算式を使用しております。

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

債務償還年数：有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

2. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

3. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

4. キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを利用しております。

5. 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けております。そのために、当社は継続的な「成長性の創造」と「株主価値」の最大化を目指すことで企業発展の源泉として利益確保に努めるとともに、株主の皆様に対して適正かつ安定した利益配分を継続することを基本方針としております。そして、今後も予想される厳しい経営環境の中で収益力確保に繋がる内部留保の充実なども考慮しつつ調和のとれた利益配分に努めてまいります。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、決定機関は株主総会であります。

また内部留保につきましては、将来の経営基盤拡大にむけた、新技術・新製品の開発・戦略的な人材開発、教育とともに、生産設備の拡充等の原資とするほか、中長期的な成長戦略の原資としての有効活用及び業績向上を図ってまいります。

なお、当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日中間配当を行うことが出来る。」旨を定款に定めております。

当期の期末配当金につきましては、上記方針及び業績や財務状況、並びに今後の経営環境等を総合的に勘案いたしまして、1株につき3円の配当とさせていただきます。予定であります。

次期につきましても、上記の基本方針に基づき配当を実施する予定であり、年間配当金は、1株につき5円を予定しております。

(4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、決算短信提出日（平成27年5月13日）現在において当社グループが判断したものであります。

① 経営成績の季節的変動について

当社グループの主な製造・販売品目はスーツを中心とした重衣料であります。商品の持つ季節的特性として、単価、数量いずれにおいても下半期に集中していることから、売上高、営業損益が下半期に偏る傾向があります。

② 出店条件

新規出店する際の物件の選定にあたっては、店舗の採算性を最も重視しており、保証金、賃借料、商圏内人口等について事前に調査を実施し、損益シミュレーション、投資回収期間予測を行い、一定条件を満たす物件を対象としております。

このため、出店条件を満たす物件を確保できない場合は、想定している売上高の成長性に影響を及ぼす可能性があります。

③ 製造コストの海外生産品との比較

当社の注文服は国内製造子会社において製造しておりますが、同業他社においてはコスト優位の面に着目して海外での生産による加工代の極めて安い製品の取扱を一部で展開し始めております。現時点では納期、運搬コスト、品質等の問題もあり、その生産への急激なシフトは行なわれておりません。

しかし、将来海外での生産による製品の調達が可能になれば、当社製造子会社への影響は大きく、結果として当社グループの損益に影響を及ぼす可能性があります。

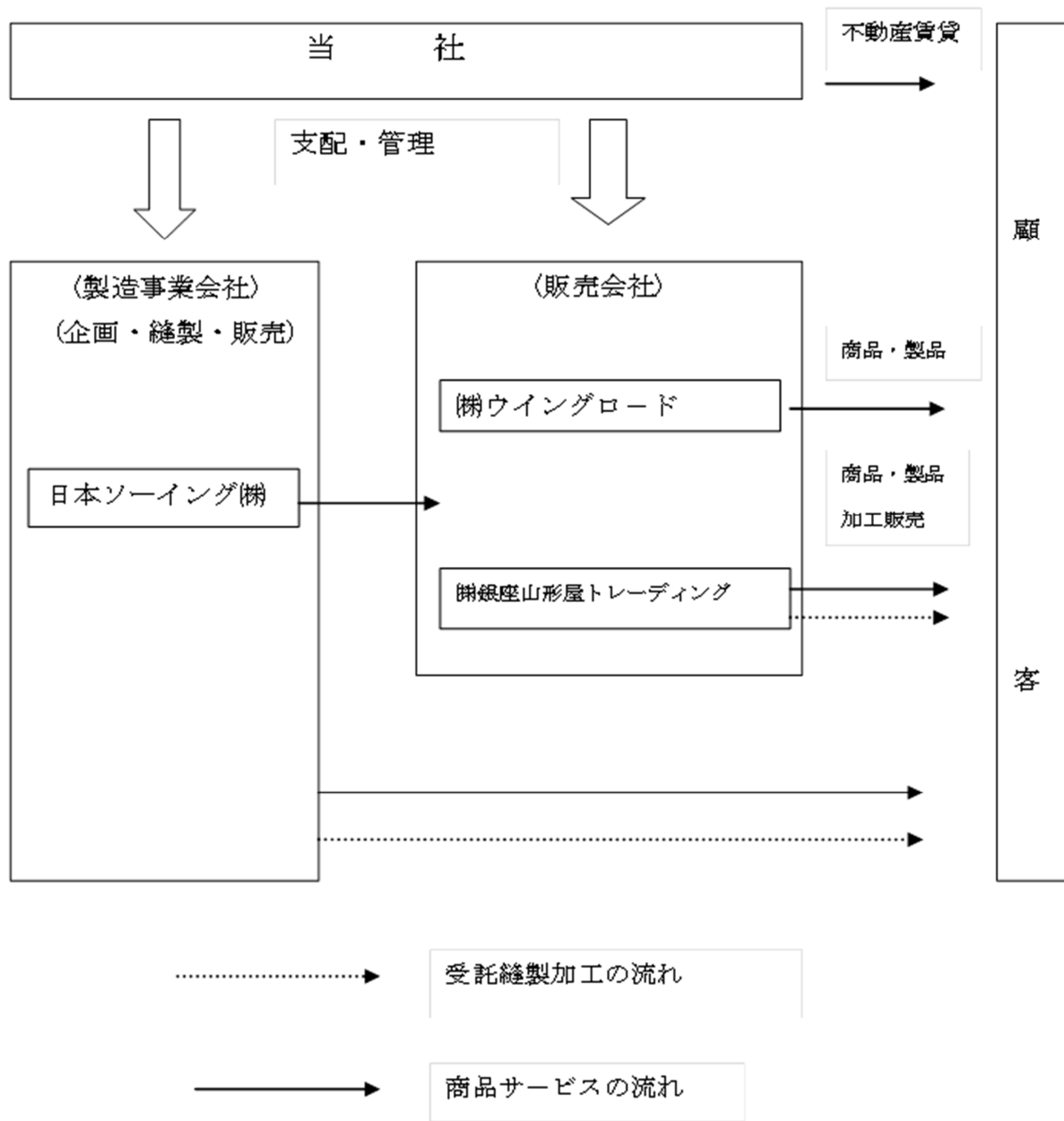
④ 製造部門における労働力の確保

当社グループの製造拠点は、北海道（芦別市）・岩手県（二戸郡一戸町）・福岡県（飯塚市）の三拠点であります。地域特性はあるものの、製造部門の労働力の確保は大変厳しい環境にあります。縫製部門の労働力は、生産ラインの安定稼働および品質改善にむけた取り組みを実現させる為に高い縫製スキルをもつ社員を育成させる事が重要な要素となっております。

オーダー事業の成長性を実現させる上でも製造部門の労働力確保が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

2. 企業集団の状況

子会社は、次のとおりであります。



連結子会社

日本ソーイング㈱

㈱ウイングロード

㈱銀座山形屋トレーディング

紳士服・婦人服の受託縫製加工・商品企画・受託加工販売・ネット販売・店舗販売

紳士服・婦人服店舗販売・無店舗販売

紳士服・婦人服卸販売・無店舗販売、受託加工販売

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

「私たちグループ企業は、お客様から見た商品やサービスの価値を最大化する努力をすることにより、お客様に対し、ファッションを通じ、生き活きとした生活、楽しい生活、充実した生活を提案し続けることにより、お客様より支持されつづける企業を目指します。」という企業理念に基づき、企業活動を実行し、結果として「事業規模の大小にかかわらず、それぞれが目指す分野において、“オンリーワン”としてお客様にその存在価値を認められる、質的に高い一流企業」を目指し、事業の遂行をおこなってまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社は「安定した利益とキャッシュ・フローを出せる経営基盤の確立」の方針のもと、継続的に企業価値の向上を図ることが株主重視の経営と認識し、成長性の確保を図りながら、売上高対経常利益率の向上と総資産回転率の向上を目指しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略と今後の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、景気回復の兆しを感じられるものの、個人消費の回復遅れや円安による原材料価格の上昇など、当業界をとりまく環境は依然厳しい局面が続くと予想されます。

このような状況のもと当社グループは、営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的黑字化の基盤を構築するため既存事業の客数・品質を向上させながら販売の拡大・強化を図ってまいります。

- ① 販売員が行為行動に基づき「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客（リピーター）をものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において、本物のプロとしてのテーラー集団をつくりあげてまいります。
- ② ブランドにおいてはそれぞれの嗜好の異なるお客様に向けて、更なる魅力的なブランドを認知していただく為に、「銀座山形屋ブランド」は、銀座流の良質な大人の装いをテーマに、安心できる納得の品質でお客様に満足感を提案してまいります。脱背広のマーケットが広がる中、カスタマイズされた自分だけの一着を求めるマーケットは、確実に広がっています。ビジネススーツにおいては奇をてらわずに、上質でベーシックなものを更に提案してまいります。
「サルトリア プロメッサブランド」は、季節に合わせた着こなし提案、お客様それぞれの嗜好に合わせた着こなし提案をさせていただき、イタリアの洋服文化を感じていただきながら「あなたを包む価値ある一着」のコンセプトを提案させていただきます。今秋冬シーズンでは、新たにコートでの新モデルを提案させていただきます。
「ミスターナ ブランド」は、30歳から40歳を中心に、自分の体型にあった「あなただけの一着」をモードとともに、お客様にお届けします。今春夏シーズンは、テーラーメイドスーツを基本に、エレガンスとの融合を図り、新しいビジネスファッションを提案させていただきます。
- ③ 「プレフブランド」は、オーダースーツの入門編として28歳をメインターゲットとして、提案させていただいております。2月出店の吉祥寺店も順調に売り上げを伸ばしており、今後もマーケット分析を行いながら、更なる出店を目指してまいります。
インターネットによるオーダースーツブランド「スーツファクトリーdpi」は、楽天・ヤフーのショッピングモールでの出店で、実店舗の接客レベル、商品展開レベルに如何に近づき、距離・時間を超えたサービスを、如何に実現していけるかをテーマに、更に研究してまいります。
- ④ 製造部門におきましては、昨年から実施しているプロ人材教育の対象者を増やし、更にグレードアップさせていただきます。“メイドインジャパン”への拘りのもと、更なる設備投資と人材投資を軸に、お客様にご満足のいただける品質を作り上げてまいります。
- ⑤ 固定費削減におきましては、ゼロベースを基本に現状費用の見直しを継続して行ない経費削減への取り組みを速やかに実施してまいります。

(4) 内部管理体制の整備・運用状況

当社は、内部牽制組織として代表取締役社長の直轄で内部監査室を設置し、内部監査担当者が「内部監査規程」に基づき、監査計画を策定し、定期的に本社管理部門及び各子会社の店舗・営業所・製造部門に対して、日常業務の適法性の監査を実施するとともに、業務改善に関する指摘、助言を行い、業務の効率化や改善を図っております。

また、管理部門の配置につきましては、持株会社である当社にグループ全体の人事総務・経理財務・システムを担当する管理部を設置しております。

管理部は製造部門、販売営業部門などの他部門からは独立しており、グループ全体の内部管理および内部牽制体制の確保を図っております。

また、「金融商品取引法」により求められる内部統制報告制度の対応のできる体制を構築しております。

4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、将来における国際会計基準の適用に備え、国際会計基準の知識の習得、日本基準とのギャップ分析及び導入における影響度調査等の取り組みを実施しておりますが、国際会計基準の適用時期は未定であります。

5. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	913,981	1,102,423
受取手形及び売掛金	566,359	557,165
商品及び製品	132,338	144,202
仕掛品	23,402	23,530
原材料	114,464	117,395
その他	54,616	59,897
貸倒引当金	△1,808	△1,692
流動資産合計	1,803,355	2,002,921
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	703,997	737,883
減価償却累計額	△597,126	△611,778
建物及び構築物(純額)	106,870	126,105
機械装置及び運搬具	587,437	647,588
減価償却累計額	△522,202	△544,741
機械装置及び運搬具(純額)	65,235	102,846
工具、器具及び備品	64,813	78,871
減価償却累計額	△52,548	△51,923
工具、器具及び備品(純額)	12,265	26,947
土地	193,078	193,078
リース資産	27,620	25,026
減価償却累計額	△16,329	△14,375
リース資産(純額)	11,290	10,651
有形固定資産合計	388,740	459,629
無形固定資産		
電話加入権	3,056	2,956
その他	978	1,375
無形固定資産合計	4,034	4,332
投資その他の資産		
投資有価証券	1,375,074	1,435,943
敷金及び保証金	781,215	770,746
その他	127,228	133,259
貸倒引当金	△13,013	△14,251
投資その他の資産合計	2,270,505	2,325,697
固定資産合計	2,663,280	2,789,659
資産合計	4,466,635	4,792,581

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	179,687	205,507
未払金	133,173	147,826
リース債務	6,498	5,979
未払法人税等	16,353	17,021
未払消費税等	35,588	105,548
ポイント引当金	35,576	41,177
その他	256,268	242,818
流動負債合計	663,145	765,881
固定負債		
リース債務	14,667	11,471
繰延税金負債	104,505	131,705
役員退職慰労引当金	92,561	87,048
退職給付に係る負債	592,785	579,233
預り保証金	10,910	12,110
資産除去債務	195,483	187,688
固定負債合計	1,010,913	1,009,257
負債合計	1,674,059	1,775,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	-	-
利益剰余金	△99,209	90,966
自己株式	△79,517	△79,929
株主資本合計	2,548,834	2,738,597
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	243,742	278,844
その他の包括利益累計額合計	243,742	278,844
純資産合計	2,792,576	3,017,442
負債純資産合計	4,466,635	4,792,581

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高		
製商品売上高	3,845,975	4,131,887
受託加工売上高	673,866	683,908
売上高合計	4,519,841	4,815,796
売上原価		
製商品売上原価	1,612,187	1,707,497
受託加工売上原価	489,345	507,377
売上原価合計	2,101,532	2,214,874
売上総利益	2,418,308	2,600,921
販売費及び一般管理費		
販売手数料	102,369	122,350
広告宣伝費	157,675	163,311
給料及び手当	920,162	923,474
退職給付費用	57,483	57,882
減価償却費	11,841	17,090
賃借料	395,163	408,637
その他	692,328	745,615
販売費及び一般管理費合計	2,337,025	2,438,362
営業利益	81,283	162,558
営業外収益		
受取利息	1,438	893
受取配当金	28,624	31,162
受取手数料	13,754	14,885
貸倒引当金戻入額	23,529	-
助成金収入	6,486	20,836
雑収入	11,024	10,373
営業外収益合計	84,857	78,150
営業外費用		
支払利息	412	700
雑損失	601	595
営業外費用合計	1,013	1,296
経常利益	165,127	239,412
特別損失		
減損損失	11,694	5,165
投資有価証券評価損	-	20,000
特別損失合計	11,694	25,165
税金等調整前当期純利益	153,432	214,246
法人税、住民税及び事業税	21,067	21,670
法人税等調整額	323	2,400
法人税等合計	21,390	24,070
少数株主損益調整前当期純利益	132,041	190,176
当期純利益	132,041	190,176

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	132,041	190,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	148,223	35,102
その他の包括利益合計	148,223	35,102
包括利益	280,265	225,278
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	280,265	225,278
少数株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,727,560	242,303	△473,553	△79,348	2,416,962
当期変動額					
欠損填補		△242,303	242,303		—
当期純利益			132,041		132,041
自己株式の取得				△169	△169
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△242,303	374,344	△169	131,872
当期末残高	2,727,560	—	△99,209	△79,517	2,548,834

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	95,518	95,518	2,512,480
当期変動額			
欠損填補			—
当期純利益			132,041
自己株式の取得			△169
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	148,223	148,223	148,223
当期変動額合計	148,223	148,223	280,096
当期末残高	243,742	243,742	2,792,576

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,727,560	-	△99,209	△79,517	2,548,834
当期変動額					
当期純利益			190,176		190,176
自己株式の取得				△412	△412
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			190,176	△412	189,763
当期末残高	2,727,560	-	90,966	△79,929	2,738,597

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	243,742	243,742	2,792,576
当期変動額			
当期純利益			190,176
自己株式の取得			△412
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	35,102	35,102	35,102
当期変動額合計	35,102	35,102	224,865
当期末残高	278,844	278,844	3,017,442

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	153,432	214,246
減価償却費	51,217	60,839
減損損失	11,694	5,165
投資有価証券評価損益(△は益)	—	20,000
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△26,096	1,122
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,292	△13,552
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4,647	△5,513
受取利息及び受取配当金	△30,063	△32,055
支払利息	412	700
売上債権の増減額(△は増加)	△68,695	8,454
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,815	△14,923
仕入債務の増減額(△は減少)	△55,510	25,819
その他	44,841	31,524
小計	84,357	301,829
利息及び配当金の受取額	30,063	32,055
利息の支払額	△412	△700
法人税等の支払額	△22,777	△22,761
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,231	310,422
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△60,498	△98,602
無形固定資産の取得による支出	—	△1,188
有形固定資産の売却による収入	4,724	1,026
投資有価証券の取得による支出	△930	△20,973
差入保証金及び敷金の預入による支出	△20,700	△14,120
差入保証金及び敷金の返還による収入	18,664	22,474
貸付金の回収による収入	47,108	—
その他	△3,813	△5,969
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,444	△17,352
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△169	△412
リース債務の返済による支出	△8,496	△4,215
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,665	△4,628
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	67,121	288,441
現金及び現金同等物の期首残高	746,860	813,981
現金及び現金同等物の期末残高	813,981	1,102,423

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

なお、子会社はすべて連結されております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結財務諸表提出会社と同一であります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

商品・・・品番別個別法およびランク別総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

製品及び仕掛品・・・総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料・・・最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8～47年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法によっております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権

個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

② ポイント引当金

将来のポイントカードの使用による費用発生に備えるため、使用実績率に基づき翌連結会計年度以降に利用されると見込まれるポイントに対し見積額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員退職による退職慰労金支給に備えるため、支給内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他の連結財務諸表作成のための重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

② 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(連結損益計算書関係)

※1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
38,638千円	40,063千円

※2. 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

用途	種類	場所
営業店舗	建物及び構築物、リース資産	大阪府大阪市他7件

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗及び営業所を基本単位としてグルーピングしております。ただし、将来の使用が見込まれない遊休資産は、個別の資産グループとしております。

営業店舗及び営業所

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである営業店舗及び営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(11,694千円、内訳 建物及び構築物7,490千円、リース資産4,204千円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

用途	種類	場所
営業店舗及び営業所	建物及び構築物、工具、器具及び備品	東京都中央区他2件

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗及び営業所を基本単位としてグルーピングしております。ただし、将来の使用が見込まれない遊休資産は、個別の資産グループとしております。

①営業店舗及び営業所

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、また継続してマイナスとなる見込みである営業店舗及び営業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(5,065千円、内訳 建物及び構築物4,994千円、工具、器具及び備品 71千円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく評価額がマイナスであるため、回収可能価額は零として算定しております。

②遊休資産

また、将来の使用が見込まれない遊休の電話加入権については帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として99千円計上いたしました。なお、回収可能価額は市場の実勢価格を基に算定した正味売却価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	146,597千円	59,902千円
組替調整額	—	—
税効果調整前	146,597	59,902
税効果額	1,625	△24,799
その他有価証券評価差額金	148,223	35,102
その他の包括利益合計	148,223	35,102

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,044,715	—	—	18,044,715
合計	18,044,715	—	—	18,044,715
自己株式				
普通株式(注)	780,469	1,700	—	782,169
合計	780,469	1,700	—	782,169

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,700株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,044,715	—	—	18,044,715
合計	18,044,715	—	—	18,044,715
自己株式				
普通株式(注)	782,169	2,417	—	784,586
合計	782,169	2,417	—	784,586

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,417株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月29日 定時株主総会	普通株式	51	利益剰余金	3	平成27年3月31日	平成27年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	913,981千円	1,102,423千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△100,000	—
現金及び現金同等物	813,981	1,102,423

(リース取引関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため表示を省略しております。

(金融商品関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため表示を省略しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,359,937	1,011,867	348,070
	その他	—	—	—
	小計	1,359,937	1,011,867	348,070
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	5,469	5,893	△424
	その他	—	—	—
	小計	5,469	5,893	△424
合計		1,365,406	1,017,761	347,645

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 9,668千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,426,275	1,018,727	407,548
	その他	—	—	—
	小計	1,426,275	1,018,727	407,548
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		1,426,275	1,018,727	407,548

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 9,668千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度については、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度と確定給付企業年金制度を併用しております。一部の連結子会社では、中小企業退職金共済制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	590,492千円
退職給付費用	71,061
退職給付の支払額	△54,736
制度への拠出額	△14,032
退職給付に係る負債の期末残高	592,785

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	634,145千円
年金資産	△211,752
	422,392
非積立型制度の退職給付債務	170,392
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	592,785

退職給付に係る負債	592,785
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	592,785

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	71,061千円
----------------	----------

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は3,859千円であります。

当連結会計年度(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度については、確定給付型の制度として、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度と確定給付企業年金制度を併用しております。一部の連結子会社では、中小企業退職金共済制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	592,785千円
退職給付費用	69,679
退職給付の支払額	△69,567
制度への拠出額	△13,664
退職給付に係る負債の期末残高	579,233

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	614,081千円
年金資産	198,323
	415,757
非積立型制度の退職給付債務	163,476
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	579,233

退職給付に係る負債	579,233
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	579,233

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	74,483千円
----------------	----------

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は4,804千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため表示を省略しております。

(資産除去債務関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため表示を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、持株会社としてグループ全体の戦略を担い、子会社3社は「小売事業」「卸売事業」「受託縫製事業」を展開しております。

「小売事業」は、主に店舗等においてオーダー紳士・婦人服、カジュアル洋品の小売販売を行っております。「卸売事業」は、主にオーダー紳士・婦人服の卸販売を行っております。「受託縫製事業」は、主に紳士・婦人服の受託縫製加工を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同様であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,892,181	1,687,184	926,248	4,505,614
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	1,720,463	1,720,463
計	1,892,181	1,687,184	2,646,711	6,226,077
セグメント利益	16,446	69,121	42,287	127,855
セグメント資産	893,092	475,515	710,622	2,079,231
その他の項目				
減価償却費	1,358	3,980	19,767	25,106
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	8,938	6,723	56,356	72,019

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	2,080,883	1,736,287	985,229	4,802,400
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	1,828,297	1,828,297
計	2,080,883	1,736,287	2,813,527	6,630,698
セグメント利益	79,898	89,056	37,616	206,571
セグメント資産	885,138	490,978	801,058	2,177,175
その他の項目				
減価償却費	2,609	3,807	31,112	37,529
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	22,244	7,012	90,365	119,622

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
報告セグメント計	6,226,077	6,630,698
セグメント間取引消去	△1,720,463	△1,828,297
全社収益	14,277	13,395
連結財務諸表の売上高	4,519,841	4,815,796

(単位:千円)

利益	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
報告セグメント計	127,855	206,571
棚卸資産の調整額	1,306	△528
その他の調整額	△11,493	△9,503
全社収益(注1.)	258,631	244,185
全社費用(注2.)	△295,016	△278,167
連結財務諸表の営業利益	81,283	162,558

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
報告セグメント計	2,079,231	2,177,175
その他の調整額	△537,355	△532,090
本社管理部門に対する債権の相殺消去	△632,405	△593,032
全社資産 (注)	3,557,166	3,740,528
連結財務諸表の資産合計	4,466,635	4,792,581

(注) 全社資産は、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等です。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	25,106	37,529	26,110	23,313	51,217	60,842
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	72,019	119,622	10,560	20,973	82,579	140,595

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	オーダー 紳士服	オーダー 婦人服	既製洋品	その他	合計
外部顧客への売上高	3,547,335	331,778	553,690	87,038	4,519,841

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	オーダー 紳士服	オーダー 婦人服	既製洋品	その他	合計
外部顧客への売上高	3,830,113	369,533	531,861	84,289	4,815,796

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	全社・消去	合計
減損損失	7,185	4,204	7,570	△7,265	11,694

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	全社・消去	合計
減損損失	—	—	5,165	—	5,165

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	山形産業株式会社	東京都中央区	48,000	不動産の売買及び賃貸	(被所有) 直接0.06	店舗の賃借	賃料支払	33,038	敷金及び保証金	218,996

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

賃借料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等は含んでおりません。

3. 当社役員山形政弘及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	山形産業株式会社	東京都中央区	48,000	不動産の売買及び賃貸	(被所有) 直接0.06	店舗の賃借	賃料支払	33,038	敷金及び保証金	224,996

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

賃借料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 取引金額には消費税等は含んでおりません。

3. 当社役員山形政弘及びその近親者が議決権の100%を直接保有しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	161円 77銭	174円 80銭
1株当たり当期純利益金額	7円 65銭	11円 02銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
当期純利益金額(千円)	132,041	190,176
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額	132,041	190,176
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,263	17,261

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,792,576	3,017,442
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,792,576	3,017,442
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	17,262	17,260

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

6. その他

(1) 役員の変動

① 役員の変動

常務取締役 小口 弘明(現 取締役)

② 新任取締役候補

取締役管理部長 渡邊 光潤(現 管理部長)

取締役(社外取締役) 田中 秀文(元 株式会社イノーバー代表取締役)

※平成27年6月29日開催予定の定時株主総会を経て決定する予定であります。

(2) その他

該当事項はありません。